

Marcus Yabe

-
- I 線の発見
 - II 形の発見
 - III 存在の激昂・第1部
 - IV 存在の激昂・第2部
-

絵画、2020年から2025年

2026年10月版

ステートメント

Marcus Yabeは、言葉に収まりきれないものを描く。その絵画は2020年、パンデミックのさなかに、日々語られる悲劇と、息をしたいという切実な欲求への応答として始まった。

アクリルとミクストメディアを重ねた層のなかで、線は自由な身振りから円へ、そしてやがて見る者を見つめ返す歪んだ顔へと展開していく。作品は三つの楽章から成る。線の発見、形の発見、そして存在の激昂である。

家族、情愛、都市の暴力、カーニバル、そして沈黙がキャンバスを貫く。色彩が鮮やかなのは、混沌と挑発を覆い隠すためである。これは、喜ばせるよりも対峙することを選ぶ絵画である。

略歴

Marcus Yabeはブラジル、Paraná州Paranavaíに生まれ、Curitibaを拠点に生活し制作している。

芸術は早くから彼の歩みの一部であった。成人して間もない頃には演出家、照明家、舞台美術家、衣装デザイナーとして活動し、イベント告知のためのパネルを制作し、フリーランスのグラフィックデザイナーとしても働いた。

メディアとコミュニケーションの分野でキャリアを築き、TOPVIEWのパブリッシャー、Grupo RICおよびGazeta do Povoの経営幹部を務めた。ISE Business SchoolのMaster in Media Managementを修了。

2020年に絵画制作を始める。2020年から2025年までの作品は、キャンバス、厚紙、デジタルプリントの粘着シート、合成皮革にアクリルとミクストメディアで描かれた絵画から成る。

経歴

展覧会	近日開催	絵画展・Casa Lespace、Curitiba
出版	2025	カタログ 001・作家版、4月
	2026	カタログ 001・改訂版、10月
コレクション		個人コレクションに作品所蔵
舞台芸術		演出家、照明家、舞台美術家、衣装デザイナー
学歴		Master in Media Management・ISE Business School

欲望の はじまり

このカタログを手に行っているのなら、それは運命が、私の最初の「群れ」とも言うべきキャンバスと芸術的実験にあなたを引き合わせようとしたからである。

私はまだ新しい作家であり、世界が経験したなかでも最も混乱した時代のひとつに制作を始めた。とはいえ、芸術は私にとって目新しいものではない。成人して間もない頃、私は演出家、照明家、舞台美術家、衣装デザイナーとして働いた。ごく若い頃からイベント告知のためのパネルを制作し、思春期を過ぎてからは、私の情熱のひとつであるグラフィックデザインをフリーランスで手がけてきた。

私の作品はいくつかの段階に分かれている。線の発見、形の発見、そして存在の激昂である。これらの作品があなたを魅了し、あるいは揺さぶり、そばに置きたいと思わせるほどであることを願っている。

思い違いをしてはならない。作品は生きていて、色彩に満ちている。混沌と挑発を覆い隠すために。

四つの楽章、 ひとつの切実さ。

I	線の発見	p. 07
	21点	
II	形の発見	p. 32
	16点	
III	存在の激昂・第1部	p. 51
	16点	
IV	存在の激昂・第2部	p. 69
	23点	

巻末にマニフェスト、マティエールの細部、作品リスト、販売条件を収録。

線の発見

線は、言葉にしないものを表現する必要から生まれる。胸を締めつけ、構図と重さと色彩のなかで均衡を与えられねばならない感情である。描かれる情景は、同時代を生きる仲間たちが仕事の会議で語ったものである。これは作家にとって表現への最初の探求であり、最初の叫びである。最初の形は、創り手とその感情を消耗させる情景が生まれるときの産声を写している。





線の発見

A Descoberta do Traço

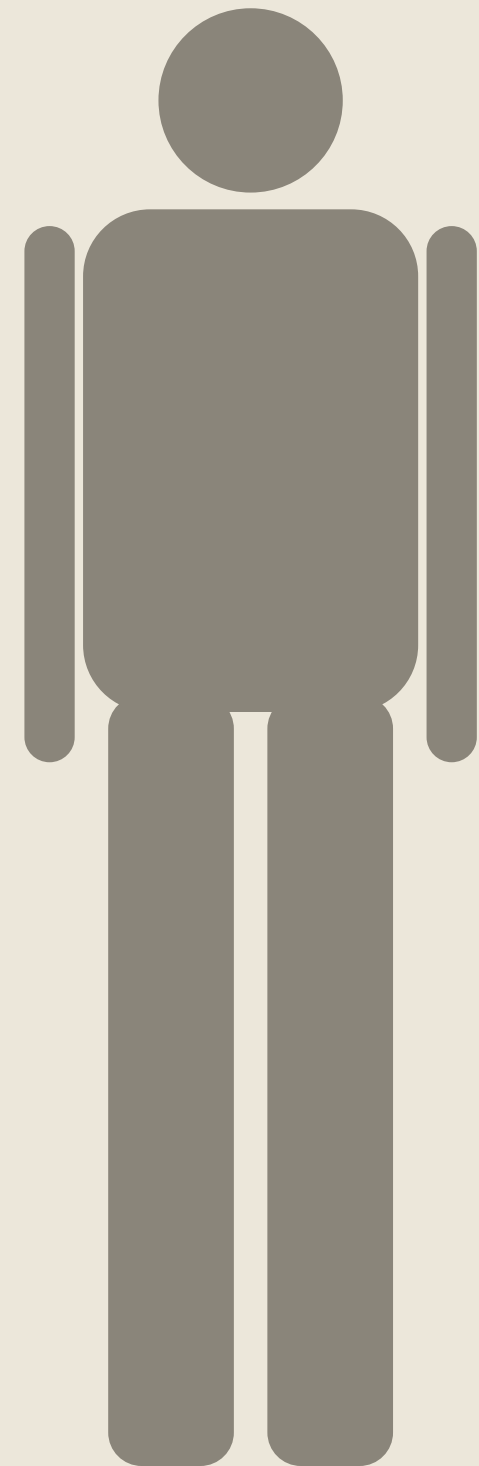
2020 ・ 118 × 180 cm ・ キャンバスにアクリル

私が最初に制作した作品 ・ 販売可 ・ 価格はお問い合わせください

《線の発見》は、傷口と治癒をともに開いた絵画である。事件報道が伝える悲劇の重さと、パンデミックのさなかに息をしたいという切実な欲求から生まれ、苦悶と絵具と沈黙の層を抱えている。描かれ、描き直され、自らの別の姿の下に隠されながら、ここで線は救いとして現れた。色彩は震えるが、その密度を覆い隠しはしない。このキャンバスこそ、すべての始まりである。

線の発見

スケール・118 cm × 180 cm (幅 × 高さ)



比較用の人物像：身長 1.75 m



存在の線の重なり

Sobreposições de Traços do Ser

2020 ・ 二連作 20 × 40 cm ・ キャンバスにアクリル

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

《存在の線の重なり》は内なる層をめぐる二連作である。それぞれの色が、見せられるものと抑えこまれるものとの葛藤から立ち現れるかのようだ。有機的な形は震える肉感的な脈動のなかで絡み合い、感情の混沌に秩序を与えようとする試みを露わにする。ここで線は、単なる線ではない。身体である。自らのアイデンティティと格闘する身振りであり、重なり、断片化し、生きている。



恋人たちを結ぶ線

Os Traços que Unem os Enamorados

2020 ・ 30 × 30 cm ・ キャンバスにアクリル

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

《恋人たちを結ぶ線》は、沸き立つ線の舞踏である。ここでの愛は穏やかでも控えめでもなく、色彩の、欲望の、すれ違いと再会の爆発である。ふたつの身体、あるいはふたつの魂が近づき、触れ合い、情愛の混沌のなかで歪んでいく。愛に定まった輪郭はなく、あるのは衝動と振動だけだ。この作品は、線が絆へと変わる瞬間である。



自我の混沌たる線

Os Traços Caóticos do Eu

2020 ・ 30 × 30 cm ・ キャンバスにアクリル

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

《自我の混沌たる線》は、衝突するアイデンティティの爆発である。作品は均衡を求めず、むしろそれを拒む。鮮烈な色彩、断ち切られた線、重ねられた身振りが、断片化し、葛藤し、意味を探し求める自我を露わにする。黄色は混沌を照らすが、それを解決はしない。これは沸き立つ存在の地図であり、そこではひとつひとつの層が、内側から迫る崩壊を食い止めようとしている。



線の自然

A Natureza do Traço

2020 ・ 20 × 20 cm ・ キャンバスにミクストメディア

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

《線の自然》は、有機的なものと本能的なものと戯れる。ここで線は枝のようにしなり、根のように広がり、生き物のように脈打つ。柔らかな色彩とほとんど植物的な形のあいだで、作品は混沌のなかに花開く内なる自然を明かす。点のひとつひとつ、曲線のひとつひとつ、染みのひとつひとつが呼吸しているかのようだ。線はもはや何かを表すだけではない。それ自体が動きつづける有機体なのである。



三人のマリアの線

Os Traços das Três Marias

2020 ・ 三連作 240 × 120 cm ・ キャンバスにミクストメディア

80 × 120 cm のキャンバス3点、一括販売 ・ 販売可 ・ 価格はお問い合わせください

《三人のマリアの線》は、哀悼と持続の三連作である。わが子を悼んで泣く三人のマリア、普遍的な母の姿が、円を描く身振りと、慈しみと痛みのあいだを揺れる色彩のなかに溶けていく。それぞれのキャンバスがひとつの嘆きを、時のなかに宙吊りにされた一本の線を抱えている。三点が揃うとき、沈黙と力の祭壇が立ち現れ、不在は存在となり、線は生きた記憶となる。

三人のマリアの線

3点構成・2020



パート1



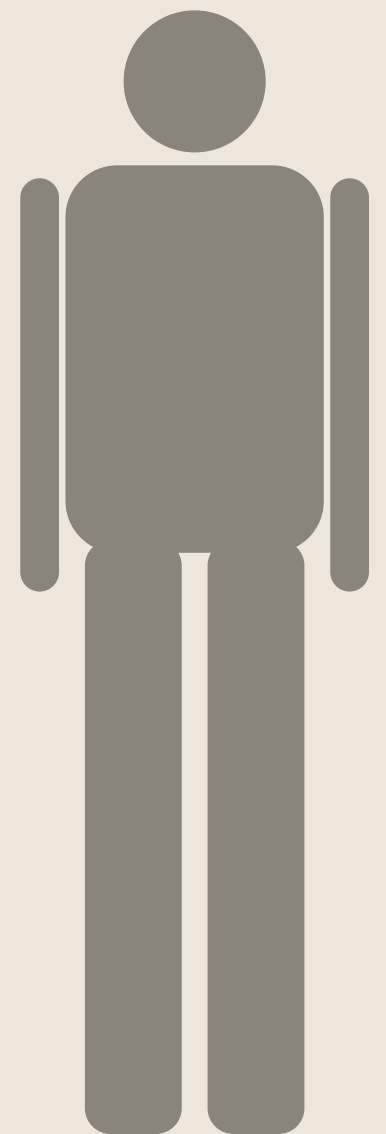
パート2



パート3

三人のマリアの線

スケール・240 cm × 120 cm (幅 × 高さ)



比較用の人物像：身長 1.75 m



描かれた運命 1・2

Destinos Traçados 1 e 2

2020・20 × 40 cm・キャンバスにミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

《描かれた運命 1・2》は、交差する生の神秘的な地図のようである。中央の人物たちは、見えない力に引かれるかのように、催眠的な縞のあいだに立ち上がる。ベージュや黄みを帯びた円は単なる装飾ではない。それは封印であり、すでに定められた運命の刻印である。二点の対は、互いを映し、互いを歪める平行の道という観念を強める。選択と必然が、絶えず張りつめた均衡のなかにある。



連作「線の身体」

Série Corps dos Traços

2020 ・ 3点連作 ・ 20 × 60 cm ・ キャンバスにミクストメディア

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

連作《線の身体》は、閉じこめられることと広がることをめぐる研究である。宙に浮かぶ三つの身体が黒い格子のあいだで動こうとする。あたかも線が牢獄であり、同時に抵抗でもあるかのように。色彩は硬い地に抗して震え、構造と本能のせめぎ合いを露わにする。それぞれのキャンバスが逃走の一瞬を、遮られた身振りを記録している。それは、自らを封じこめようとする限界と擦れ合う身体である。



連作「線のセクシュアリティ」

Série A Sexualidade dos Traços

2020 ・ 4点連作 ・ 29 × 21 cm ・ 厚紙にミクストメディア

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

連作《線のセクシュアリティ》は、欲望と悲劇のあいだの緊張を探る。身体の熱も、悲劇的なものであれそうでないものであれ血溜まりも想起させる強烈な赤の地の上で、黒い線は触れ合い、避け合い、誘い合う。それはエロティックなものとは残酷なものとのあいだの舞踏である。身振りは衝動であり、線は切り裂かれた皮膚、あるいは身震いである。この連作において、セクシュアリティは安らぎではなく、対峙である。



1



2

線のロマンティシズム 1・2

O Romantismo dos Traços 1 e 2

2020 ・ 各 29 × 21 cm ・ 厚紙にミクストメディア

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

《線のロマンティシズム 1・2》は、ファヴェーラの恋物語である。犯罪と恐怖とコンクリートに囲まれたロミオとジュリエット。線は、凍える掘っ立て小屋の薄い毛布の下の身体のように絡み合い、愛を温めるには何枚ものセーターが要る。これは、苛酷さのなかで持ちこたえ、生き延びる優しさについての作品である。周りのすべてが沈黙を求めるときでさえ、情愛が住まいつづけようとする色彩の身振りである。



陰鬱な線

O Traço Sombrio

2020 ・ 29 × 21 cm ・ 厚紙にミクストメディア

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

《陰鬱な線》は、知らない罪への罪悪感である。明かされることのない、しかし身体で感じられる秘密。暗い色調と切りつけるような青が、動きつづける深淵を描く。何かが這い進む。説明はなく、ただ重い。それは名のない記憶を運ぶ線であり、声を見いだせない罪悪感である。ここではすべてが濃密な沈黙であり、まるでキャンバスが知りすぎていながら、語ることを許されないかのようだ。



線の四つの流れと同じ身体たち

4 Fluentes do Traço e os Mesmos Corpos

2020 ・ 29 × 21 cm ・ 厚紙にアクリル

個人蔵

《線の四つの流れと同じ身体たち》は、同じひとつの身体について異なる声が語る物語である。それぞれの絵がひとつの証言であり、ひとつの版であり、ひとつのまなざしである。ファヴェーラの小川はいつもそこにあり、風景と生を切り裂き、記憶も痛みも洗い流していく。線は押し殺された言葉のように、沈黙のうちに分かち合われる秘密のように流れる。身体は耐えるが、ひとつの流れを経るごとに、もはや同じではない。



線は太陽と海に出会う

O Traço Encontra o Sol e o Mar

2020 ・ 21 × 29 cm ・ 厚紙にミクストメディア

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

《線は太陽と海に出会う》は、断ち切られた逃避への憧れである。軽やかなパレットは、島に閉じこめられ、逃走の約束として海を見つめることの重さを隠している。線は出口を探すが、自らの周りを巡るばかりだ。太陽の黄と海の深い青が、抑えられた希望の光景をつくる。無限を目の前にしながら、なお旅立てないという感覚。決して訪れることのない自由である。



描かれた情景 1・2

Uma Cena Traçada 1 e 2

2020 ・ 各 21 × 29 cm ・ 厚紙にミクストメディア

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

《描かれた情景 1・2》は、ある出来事を前にした驚愕のまさにその瞬間を描く。衝撃のなかに凍りついたふたつの身体、日常を打ち砕く何かの無言の衝撃。身振りは情愛のように見えて、防御である。鮮やかな色彩は和らげることなく、その瞬間の緊張をいっそう高めるだけだ。ここではすべてが宙吊りである。叫びの前の、逃走の前の、痛みの前の一秒。線は、すでに逃れ去ったものを引き留めようとしている。



描かれたファヴェーラの情景

Uma Cena de Favela Traçada

2021・二連作 120 × 80 cm・キャンバスにチョーク

販売可・価格はお問い合わせください

《描かれたファヴェーラの情景》は、群衆であり、熱であり、生存である。人物のひとりひとりが、苛酷で生気に満ちた日常の証人として立ち上がる。焼けつく太陽、空を横切る電線、絡み合う身体と物語。ここで線は表現であるだけでなく、告発であり、存在である。まるでキャンバスが会話も銃声も笑い声も祈りも、いっせいに聞き取っているかのようだ。切迫と真実をもって描かれた、人間の風景である。



線と人々の物語

História de Traços e Pessoas

2020 ・ 二連作 40 × 20 cm ・ キャンバスにアクリル

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

《線と人々の物語》は、身振りと絆の出会いである。白い線は表面を縫い合わせているように見え、まるで碎けた記憶をつなぎ合わせようとするかのようだ。黄、青、黒の層のあいだから、顔や気配の断片が浮かび上がる。すれ違い、見失い、思い出す人々。これは言葉なしに語られる物語であり、そこで線は抱擁に、傷痕に、あるいは通り過ぎた誰かの痕跡になる。



線の実存主義

Existencialismo do Traço

2020 ・ 30 × 30 cm ・ キャンバスにミクストメディア

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

《線の実存主義》は、内なる迷宮への潜行である。濃い緑、くぐもった黄、円を描く道筋が、自らの上に折り重なる思考の気配をつくる。それは意味を求める終わりなき探求であり、巡り、問い、ためらう線である。キャンバスは、層と矛盾に満ちた私の落ち着かない心のように脈打つ。ここで存在することは答えではなく、螺旋に描かれた問いである。



線の解体 1、6部作

A Desmontagem dos Traços 1, em 6 Partes

2020・20 × 20 cm のキャンバス6点による構成・キャンバスにアクリル

販売可・価格はお問い合わせください

《線の解体 1、6部作》は、断絶の過程である。それぞれのキャンバスは、かつてひとつの全体であったものの断片であり、まるで元の線が粉々に砕け散ったかのようだ。鮮烈な色彩、重ねられた身振り、断ち切られた形が、混沌を組み立て直そうとする試みを露わにする。それは創造の解剖学である。内側で何が脈打っているのかを知るために、線の身体を切り開くようなものだ。どの部分も、同じひとつの崩壊の異なる版を抱えている。



線の解体 2、3部作

A Desmontagem dos Traços 2, em 3 Partes

2020・29 × 21 cm の作品3点による構成・厚紙にアクリル

販売可・価格はお問い合わせください

《線の解体 2、3部作》は、進行中の崩壊である。白と黒の図案的なパターンに刻まれた地が、色彩と身振りと物質の過剰を抑えこもうとする。どの作品も自らの構造と争っているかのようで、まるで線が服従を拒んでいるかのようだ。構図が露わにするのは、爆発、ノイズ、破碎である。言いたいことと、抑えきれないものとのあいだの戦場。線はもはや丸ごとには収まらないがゆえに、ほどけていく。



線のフレーヴォ

Frevos dos Traços

2020 ・ 30 × 30 cm ・ キャンバスにミクストメディア

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

《線のフレーヴォ》は、祝祭であり眩暈である。キャンバスはリズムに弾け、まるで点のひとつひとつが想像上の楽隊の音に合わせて脈打っているかのようだ。鮮烈な色彩、重なり合う文様、円を描く身振りが視覚のカーニバルをつくり、そこで線は息が切れるまで踊る。それは過剰の、制御しえないエネルギーの祝祭である。ここで線は物語を語らない。動きのなかにある自らの存在を祝っているのである。



線のOlinda

Olinda dos Traços

2020 ・ 100 × 140 cm ・ キャンバスにアクリル

個人蔵

《線のOlinda》は、群衆であり、熱であり、散らばった記憶である。色の点のひとつひとつが、石畳の上の足音のように、ひとつのフレーヴォ、ひとつの叫び、街頭の行列のただなかの身体のように見える。キャンバスは二月の街のように脈打ち、そこではすべてが過剰であり、すべてが美である。中心はなく、方向もない。カーニバルのOlindaを歩きながら、どこで通りが終わり、どこから夢が始まるのかもわからないかのようだ。ここで線は導かない。押し流すのである。

形の発見

芸術の旅の第二段階において、探求とは、最も偽りのないかたちで自らを表現しようとする絶え間ない努力であった。形はますます痙攣的になり、線をアクセントへと切り詰めていくなかで、根源的な形である円が現れた。きれいに整えることには頓着しなかった。私が忠実であるのは物語に対してである。層の上に層を重ねた。すべてを明かすためではなく、たとえ作品の埋もれた地層のなかであっても、混沌としたエネルギーを宿し続けるために。





汚れた夜に迷うふたり

Dois Perdidos em Uma Noite Suja

2020 ・ 二連作 20 × 40 cm ・ キャンバスにアクリル

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

《汚れた夜に迷うふたり》は、沈黙のなかの出会いとすれ違いである。白い線は交差する言葉のように、知らぬまに避け合い、あるいは探し合うまなざしのようになねる。夜の深い青が、姿を見せないがそこにいて宙に浮かぶ身体にのしかかる。作品は何が起きたかを語らず、感じられたものの痕跡だけを残す。それは見捨てられること、共犯、分かち合われた闇である。夜更けのほどけかけた絆である。



José Mariaの旅立ち

A Passagem de José Maria

2020 ・ 二連作 60 × 30 cm ・ キャンバスにアクリル

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

《José Mariaの旅立ち》は、ひとつの儀礼である。ひとつの身体が沈黙のうちにキャンバスを横切り、儀式や埋葬や別れを思わせる象徴、残響、気配に囲まれている。夜の青と白い線は、聖なるもの、立ち入りえないものを暗示する。José Mariaはただの名ではない。ひとつの元型であり、去っていき、痕跡を残した誰かの記憶である。絵は葬列の律動を、悲しみと超越の混じり合いを帯びている。ここで旅立ちに終わりはない。見る者のなかで続いていくのである。



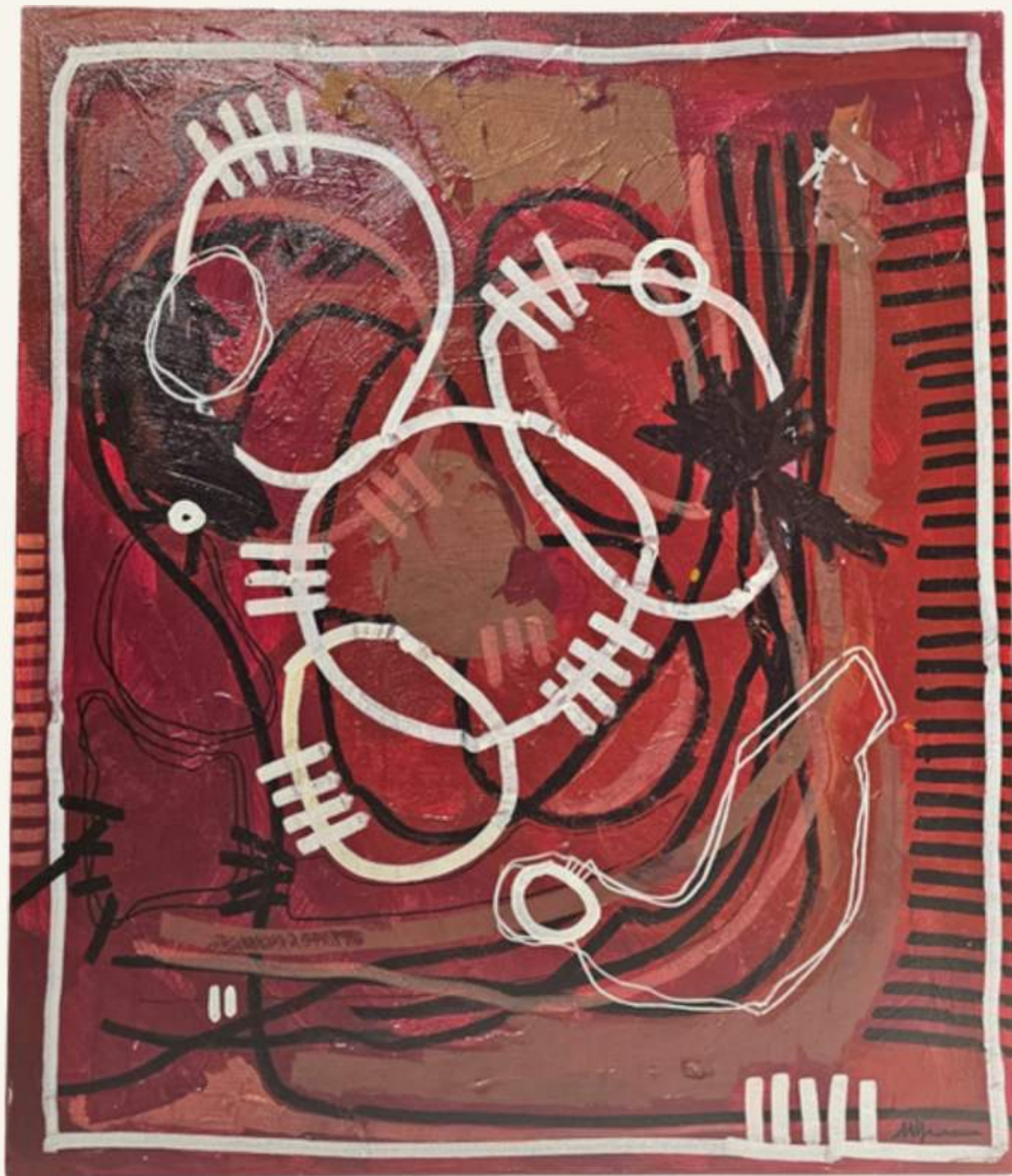
聖家族 1

Sagrada Família 1

2021 ・ 50 × 50 cm ・ キャンバスにアクリル

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

《聖家族 1》は、聖なる緊張である。鮮やかな赤の構図は、肉として、血として、絆として、葛藤として脈打つ。絡み合う白い線は象徴的なつながりの網を形づくり、そこで家族の絆は慰めよりも束縛として現れる。高貴さと暴力が等しく宿っている。ここで聖なるものは穏やかではなく、激しい。家族は静止したものではなく、絶えず擦れ合う力の場である。



聖家族 2

Sagrada Família 2

2021 ・ 60 × 70 cm ・ キャンバスにアクリル

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

《聖家族 2》は、家族の絆のドラマをさらに深める。暗く沈んだパレットと、より密な身振りが、沈黙を、疲労を、おそらくは断絶を暗示する。白い線はつながりを保っているが、いまにも切れそうな糸のように、目に見える緊張を帯びている。愛はある。しかし摩耗もある。構図は、傷痕のあいだで情愛が持ちこたえる家を響かせる。ここで聖なるものは神話ではなく、最もむき出しの状態での生存である。



聖家族 3

Sagrada Família 3

2021 ・ 40 × 50 cm ・ キャンバスにアクリル

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

《聖家族 3》は、庇護であり封じこめである。緑が親密な密林のように構図を支配し、そこでは絆が守ると同時に息を詰まらせるために絡み合う。形は抱き合い、寄りかかり、見張り合う。慈しみはある。しかし監視もある。それは情愛と支配の、帰属と幽閉の領域としての家族である。白い線は語られないものの輪郭をなぞり、感じることはできないものを黙って守っている。



家族たち

Famílias

2021 ・ 100 × 140 cm ・ キャンバスにミクストメディア

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

《家族たち》は、絆の合唱である。包みこみ、また遠ざける青のなかで、線は塊や円や交差する糸へと寄り集まり、情愛と支配、不在と存在の網を暗示する。それぞれの塊は生きた細胞のように、ひとつの家のように、ひとつの秘密のように見える。調和とノイズが同時にある。絵は理想化せず、家族であることの迷宮を描き出す。それは混乱であり、支えであり、存在という同じ絡まりのなかのすべてである。



家族たち、その他の変奏

Famílias, em Outras Variantes

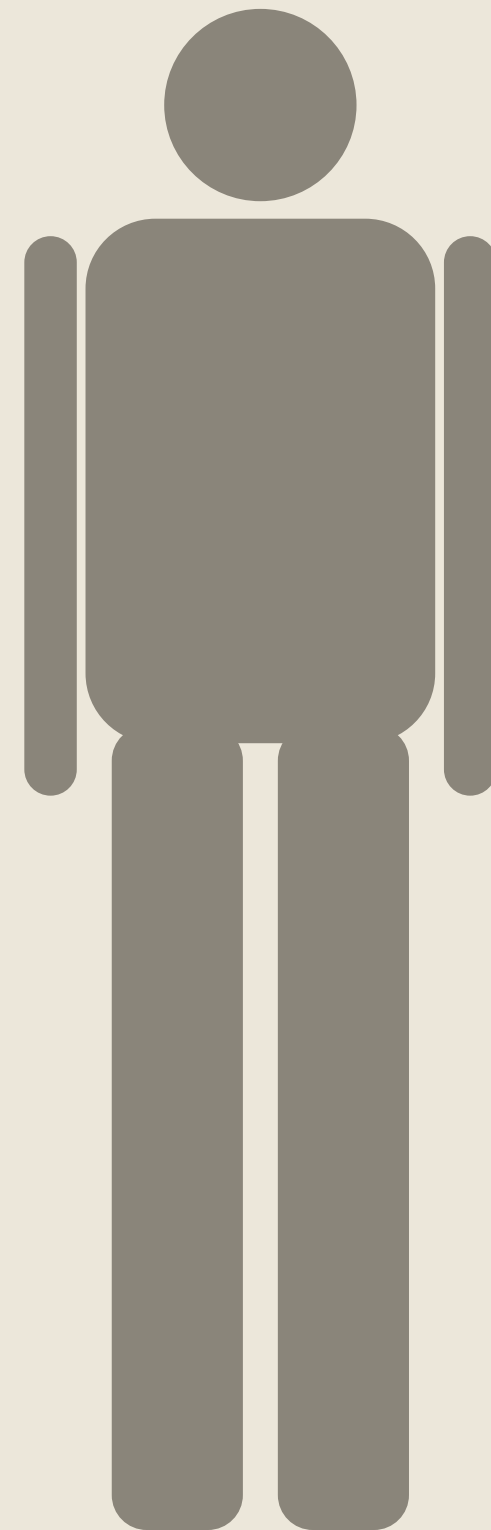
2020 ・ 100 × 150 cm ・ キャンバスにアクリル

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

《家族たち、その他の変奏》は、絆と断絶と試みの増殖である。作品は、繰り返しながら決して同じにはならない顔と結びつきへと広がっていく。それぞれの形が、帰属あるいは葛藤のひとつの可能性である。線は遊戯的なものと張りつめたもののあいだを揺れ動き、同じ平面に共存するさまざまな家族のかたちを語っているかのようだ。ここで情愛は複数で、無秩序で、深く人間的である。

家族たち、その他の変奏

スケール・100 cm × 150 cm (幅 × 高さ)



比較用の人物像：身長 1.75 m



同じ沈黙の七つの変奏

Sete Variações do Mesmo Silêncio

2020・21 × 29 cm の作品7点による構成・厚紙にアクリル

販売可・価格はお問い合わせください

この連作は、語らないが多くを告げる七つの顔、あるいは仮面を示す。そのそれぞれで、線は小さな変異を伴って繰り返され、同じひとつの抑えられた感情の残響のようである。青と黒の色調が、濃密な、ほとんど水底のような空気をつくる。肖像であり暗号であり、顔であり符号であるような何かがある。それは語られないものに耳を傾ける修練である。ここで沈黙は不在ではなく、圧縮された存在である。七つのくぐもった声へと自らを翻訳しようとする、ただひとつの身振りである。

同じ沈黙の七つの変奏

7点構成・2020



パート1



パート2



パート3



パート4



パート5



パート6



パート7



燃えて、照らさぬもの

Aquilo que Queima e Não Ilumina

2020・二連作 20 × 40 cm・厚紙にミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

二幕からなるこの構成で、強烈な黄と焼けたオーカーが息苦しい熱の空気をつくる。線は火花のようにぶつかり合うが、導く光はなく、あるのは内なる燃焼だけである。それは感情の燃焼のなかにある人物たちであり、自らの周りを回りながら、光を放たない炎を生き延びようとしている。この二連作は、消耗について、内側が熱すぎる日々について語る。ここで燃えるものは浄めない。ただ焼き尽くすだけである。



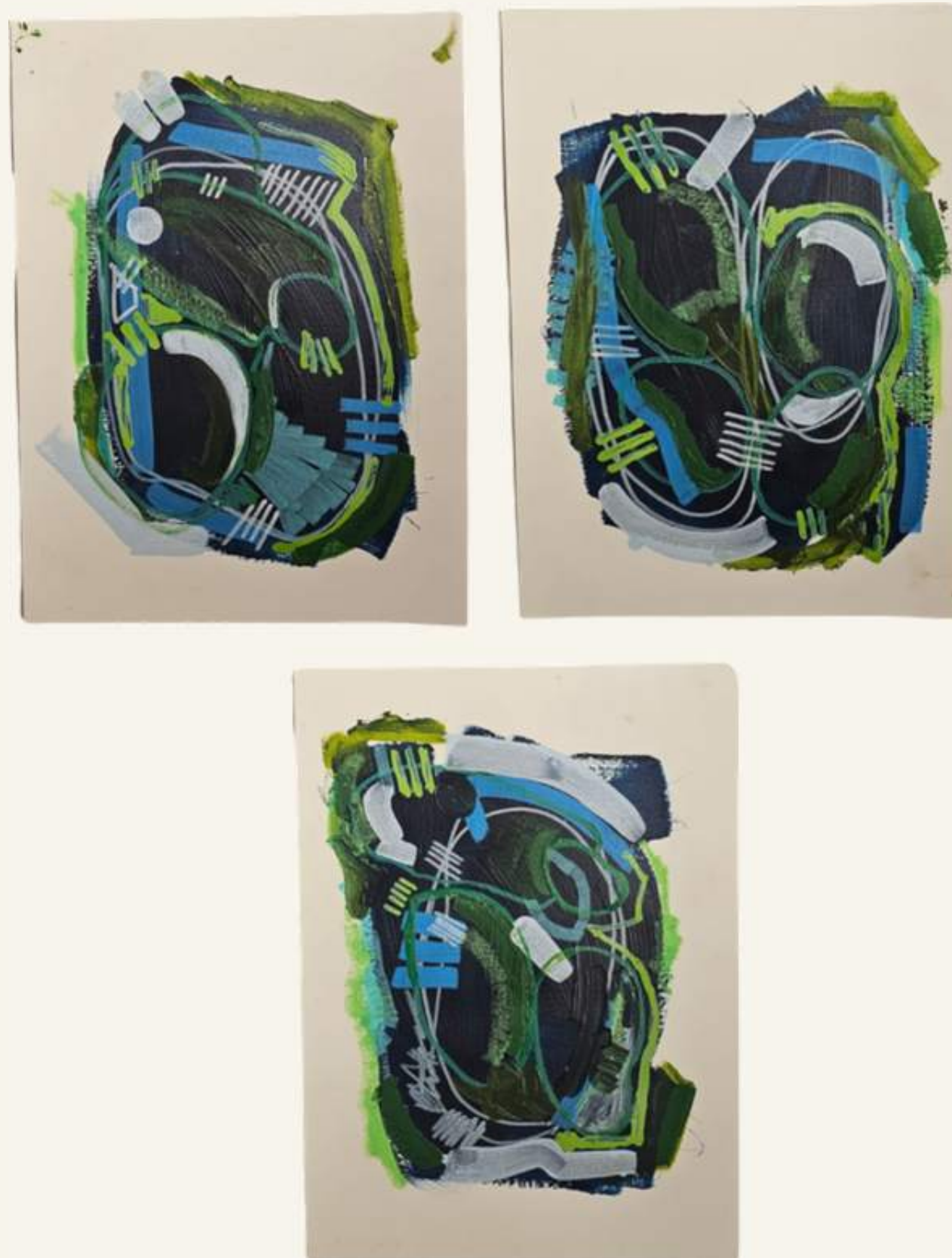
森と空と川のあいだに横たわるふたつの身体

Dois Corpos Deitados entre a Floresta, o Céu e o Rio

2020 ・ 21 × 29 cm ・ 厚紙にミクストメディア

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

ふたつの身体が、風景の一部として大地に身をゆだねる。森と空と川のあいだに横たわり、緑と青と沈黙に囲まれている。線は彼らを自然から切り離さず、自然のなかへと溶けこませる。それは領土としての身体、隠れ家としての身体である。作品は逃避ではなく、より大きなものへの委ねについて語る。ここで愛は恐れなく憩う。まるで大地と水が、もう逃げたくない者たちを迎え入れるために場所を空けたかのようだ。



身体という領土

Corpos-Território

2020 ・ 21 × 29 cm の作品3点による構成 ・ 厚紙にミクストメディア

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

三つの身体が、枝と影と流れのあいだに現れ、また消える。迷ってはいないが、自らを見いだしてもいない。彼らを取り囲む森は、記憶と恐怖と沈黙でできている。線は小径であり、切り傷であり、闇のなかの短い息である。それぞれの人物は、自らから逃れようとして、見たものと感じているもののあいだに囚われたままの誰かの断片である。ここで風景は、口が語らないものを守っている。それは私たちの亡霊が身を横たえて休む場所である。



Familexaと沈黙

Familexa e o Silêncio

2024 ・ 80 × 100 cm ・ キャンバスにミクストメディア

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

三つの顔が、消えることのない記憶のように現れる。生の色彩と記憶の層を突き抜け、内側から外を見つめている。縫い閉じられた口は、どんな叫びよりも多くを語る。涙はないが、不在はある。それは皿を超えた飢え、声の、居場所の、名の欠如である。像を取り巻く沈黙は濃密で、ほとんど聖なるものである。ここでは情愛もまた傷痕を負っている。



八月の空の下Familexa

Familexa sob o Céu de Agosto

2024 ・ 100 × 100 cm ・ キャンバスにミクストメディア

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

三つの顔が、光を失った星の散らばる暗い空に囲まれ、沈黙のうちに触れ合う。彼らは泣かないが、あまりにも長く待ちつづけた者の疲れを抱えている。冷たい色彩が約束のない夜を描き、そこで情愛は恐れと混じり合う。片隅に繰り返される青い花は慰めではなく、抵抗である。この家族において、愛は軽やかさではない。すべてが闇に沈んでもなお離さない、固い結び目である。



Familexa、大地と時間

Familexa, Terra e Tempo

2024 ・ 80 × 90 cm ・ キャンバスにミクストメディア

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

三つの顔が、温かな粘土のなかの化石のように現れる。塵に抗ってきた記憶の痕跡である。半ば閉じた目は私たちを見ず、私たちを貫いて見ている。そのあいだで、乾いた花がなお春を囁き、まるでそこにある何かが死ぬまいとしているかのようだ。これは過去の家族なのか、未来の家族なのか。あるいは、生の色が去ったあとも持ちこたえる絆の肖像にすぎないのか。時はすべてを消し去りはしない。ときにそれは、なお内に脈打つものを土で覆うだけである。



星々と囁きのあいだのFamillexa

Familexa entre Astros e Sussurros

2024 ・ 80 × 100 cm ・ キャンバスにミクストメディア

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

終わることのないように思える夜、三つの存在が、落ち着きのない星々を刺繍した空の下で沈黙のうちに寄り集まる。その顔は太古の星座のようだ。見えるものと不在のもののあいだを巡る記憶、トラウマ、情愛の親密な地図である。彼らは語らず、ただともに呼吸し、銀河の囁きに耳を傾けている。愛がある。不在がある。線と線のあいだの空間に、ひとつの宇宙がまるごと圧縮されている。なぜなら、ときに家族に残されるのは、その引力だけだからである。



大地のヴェールの下で

Sob o Véu da Terra

2024 ・ 60 × 60 cm ・ キャンバスにミクストメディア

販売可 ・ 価格はお問い合わせください

三つの顔が、聖なる時代の情感を帯びた化石のように、網と沈黙の皮膜に覆われて現れる。驚きと笑いのあいだにあるその表情は、粘土と血と記憶の層を突き抜けている。ここには太古の何かがある。時に、忘却に、痛みに歪められながらも持ちこたえる家族である。まるで大地がひそかに彼らを揺籃し、埋められたものがすべて死んでいるわけではないと明かすべき時を待っていたかのような。骨には生命がある。粘土には物語がある。そしてそこから、なお私たちを見つめる目がある。

存在の 激昂

第1部

そして顔が現れる。歪められ、ほとんど、ある素描の非論理的な進化とでも言うべき姿で。その素描は、大人びることなく、それでいて決して幼稚ではない屈託のない線によって、あらゆるものとあらゆる人を窺う主体たちを描こうとする。線はさらに痙攣的になり、いまやあらゆる大きさに及ぶ。描かれた存在の混沌としたエネルギーを定めようとする絵具の層や輪郭への欲求は、いっそう病的なものとなっていく。





青い渦の音

O Som do Vórtice Azul

2022・30 × 30 cm・キャンバスにアクリル

販売可・価格はお問い合わせください



寝室の壁の残響

Ecos na Parede do Quarto

2022・50 × 50 cm・キャンバスにミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

ひとつの顔が叫ぶ。しかし音はない。その背後で、もうひとつの顔が見つめている。用心深く、亡霊のように、おそらくは共犯として。まるで記憶と現在が重なり合い、過去がいまのあらゆる身振りの背後に潜んでいるかのようだ。線は硬く、ほとんど身構えているが、衝撃を受けとめる青と灰色のなかには、隠された優しさが息づいている。それは、自分自身に語りかけているのか壁に語りかけているのか、もはやわからない者の肖像である。ふたつの時間に割れた鏡。ひとつは感じ、もうひとつは抗う。どちらもそこに囚われ、出口を見いだせない残響のように。



沈黙の肩の上で

Nos Ombros do Silêncio

2022・50 × 50 cm・キャンバスにミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

ふたつの顔。驚きにおいて双子であり、沈黙において共犯である。その目は見るよりも聴いているようで、硬い線に封じられた口は、語られなかった物語を抱えている。軽やかさはコントラストに断ち切られる。黄色は灯台であり、同時に警告でもある。互いに寄りかかりながら、触れ合わない人物たち。共存しながら、自らを説明しない人物たち。自らの内に生き、同時に他者の傍らに生きる者のように、感情の生存をめぐる無言の協定のなかにある。ふたりを結ぶ線は思考の糸のようだ。混乱し、途切れず、脈打っている。それは分かち合われた沈黙の肖像である。与えられはしないが、感じられる抱擁である。



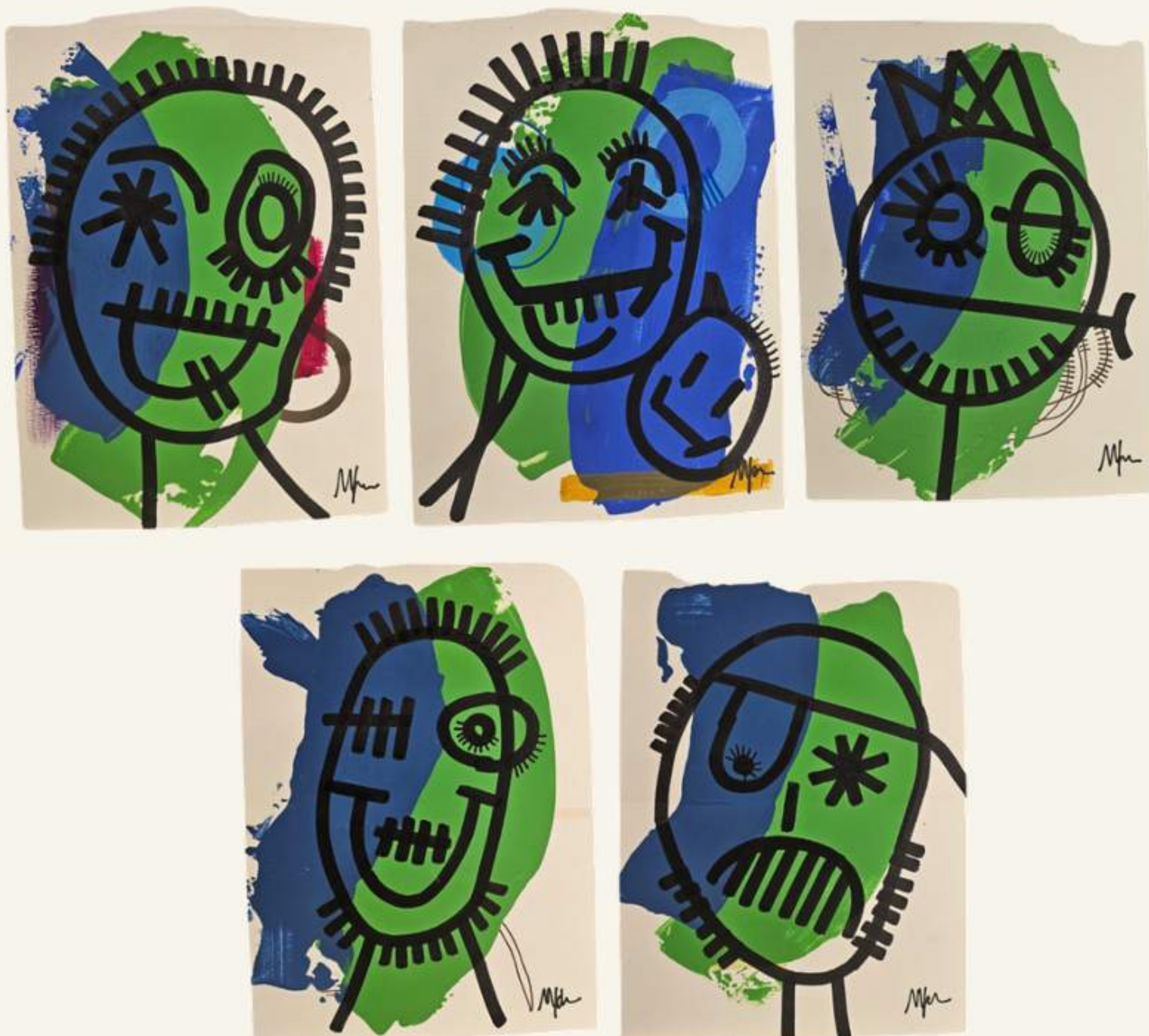
まだ生まれぬ声

A Voz Que Ainda Não Nasceu

2022・30 × 30 cm・キャンバスにアクリル

販売可・価格はお問い合わせください

形づくられつつある顔、あるいは溶けつつある顔。人物は沈黙と線から自らを組み立てているようで、まるで存在することを学んでいるかのようだ。黒い線は存在の輪郭に沿ってうねり、顔の内側の小さな図案的身振りは、太古の、いまだ胎内にある固有の言語を思わせる。希望と始まりの緑、傷つきやすさのむき出しの肉の桃色。この構成は、まだ自らの音を見いだしていない叫びである。耳を澄ますことから始め、目を閉じたまま世界を手探りする存在。最初の言葉の直前の瞬間。内なる自己が通り道を求める、まさにその時である。



静かなカーニバルの肖像

Retratos de Um Carnaval Silencioso

2023・5点連作・21 × 29 cm・厚紙にアクリル

販売可・価格はお問い合わせください

彼らは音もなく微笑み、目くばせし、泣く。記憶の風に撒かれた紙吹雪のように、これらの顔は決して通り過ぎない街頭の行列のなかで踊る。絵具と沈黙と色彩の仮装。無言の錯乱のなかの踊り手たちは、驚愕の瞬間に囚われている。



世界の終わりを夢見た少年たち

Os Meninos que Sonhavam com o Fim do Mundo

2023・3点連作・30 × 40 cm・厚紙にアクリル

販売可・価格はお問い合わせください

彼らのなかには痛むような喜びがあった。ひとつひとつの笑いが小さな破局を隠しているかのように。その目は砕けた星と、生きたことのない出来事の記憶で満ちていた。すでに崩れかけた時代の少年たちは、赤と金に切り抜かれ、沈黙と驚きの地図を顔に刻んでいた。彼らは世界の終わりを悲劇としてではなく、すべてが消える前の最後のひと遊びを待つ者の贖いとして夢見ていた。



自らの名を消すように、私たちは 愛した

Amávamos Como Quem Apaga o Próprio Nome

2023・二連作 30 × 60 cm・キャンバスにミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

ふたつの顔が、ありえない抱擁のなかで衝突する。決して交わされることのない口づけがある。幼年期と混じり合う別れがある。甘い色調は身振りの残酷さを偽っているかのようで、まるで愛が、糖衣にまみれた手で犯された罪であるかのようだ。記憶はそこにあり、肉とクレヨンに混じり合い、忘れようとするものの厚い層のあいだに私たちの断片が挟まれている。それは引っかく優しさであり、朽ちゆく情愛であり、それでもなお、愛である。



砂のなかで笑う影

Um Vulto que Ri na Areia

2023・30 × 30 cm・キャンバスにミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

粘土と焼けた太陽の色調のあいだに、漂うようなひとつの顔が現れる。仮面なのか、嘆きなのか、記憶なのか、誰にもわからない。執拗な黒い線が、沈黙のあとに残されたものの輪郭をなぞる。何かが壊れている。しかし、なお息をしている。片方の目は笑い、もう片方は過去を覗きこむ。遠い夏の火事を生き延びた子どものような。砂、時間、身体、そして素描。そこにあるすべてが立ちつづけようとしている。まるで描くという行為が、建て直す行為でもあるかのように。



忘れられた風を聴く者たち

Ouvintes do Vento Esquecido

2022・40 × 40 cm・キャンバスにミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

三つの顔が、疲れた石のように身を寄せ合い、すでに過ぎ去った何かの重さを分かち合っている。確かな線が古い沈黙を包みこみ、淡い青は隙間から漏れ出る記憶を囁いているかのようだ。彼らは、もはや吹くことのない風を聴く者であり、おそらくはその共犯者である。どの線も傷痕であり、開かれた耳はどれも聖遺物箱である。中央では、半ば閉じた口が、もはや語りえないものを守っている。



私に噛みつく仮面たち

Máscaras que Me Mordem

2023・3点連作・30 × 40 cm・厚紙にアクリル

販売可・価格はお問い合わせください

大きく開いた笑み、見開かれすぎた目、グロテスクの縁で踊る歯。喜びを装う顔、あるいは私たちの喜びを嘲る顔である。笑っているように見える絵。しかし誰を笑っているのか。自分自身か、私たちか。どの線も無言の緊張を叫び、どの色も裏返された宴の手品である。獣のような何か、操り人形のような何か、鏡のような何かがある。結局のところ、それらは仮面であり、そのどれもが噛みつく。



森を嘲る精霊たち

Espíritos que Zombam da Floresta

2024・二連作 80 × 50 cm・キャンバスにアクリル

販売可・価格はお問い合わせください

最も深い緑から生まれたふたつの古い精霊である。見開いた目と黙ることのない口で、彼らは世界を嘲る。確かさを、儀礼を、形を笑う。その顔は、錯乱の絵具で描かれた生きた仮面である。私たちのあいだにしながら、何もののにも属さない。不条理の守り手、見えないものの番人。彼らは、木の葉を風に吹き飛ばすように混沌と戯れる。



深淵の哄笑

Gargalhada do Abismo

2024・50 × 60 cm・キャンバスにアクリル

販売可・価格はお問い合わせください

錯乱のなかで殴り描かれた存在。半ばは嘲る者、半ばは子ども。限界と戯れ、誰にも見えない色鉛筆で混沌を塗る。見開いた目は答えを求めない。すでに知っているのだ。大きく開いた口は、理解しようとするあらゆる試みを笑う。脈打つ色のひとつひとつに、無言の叫びが、歪んだ記憶が宿る。ここで深淵は、ショッキングピンクと星の目をまとっている。



片目の治世

Reinado de Um Olho Só

2023・14 × 21 cm・厚紙にアクリル

販売可・価格はお問い合わせください

色彩の爆発のなかで、彼はただ片目で君臨する。もう片方の目は、見たくないものからおそらく免れている。その顔は仮面であり肉であり、その身振りは踊りであり傷である。点は散らばった思考のように、傷痕と混じり合う子どもじみた着想のように広がる。ここに沈黙はなく、あるのは痛みと喜びが同じ玉座を分け合う内なるカーニバルだけである。



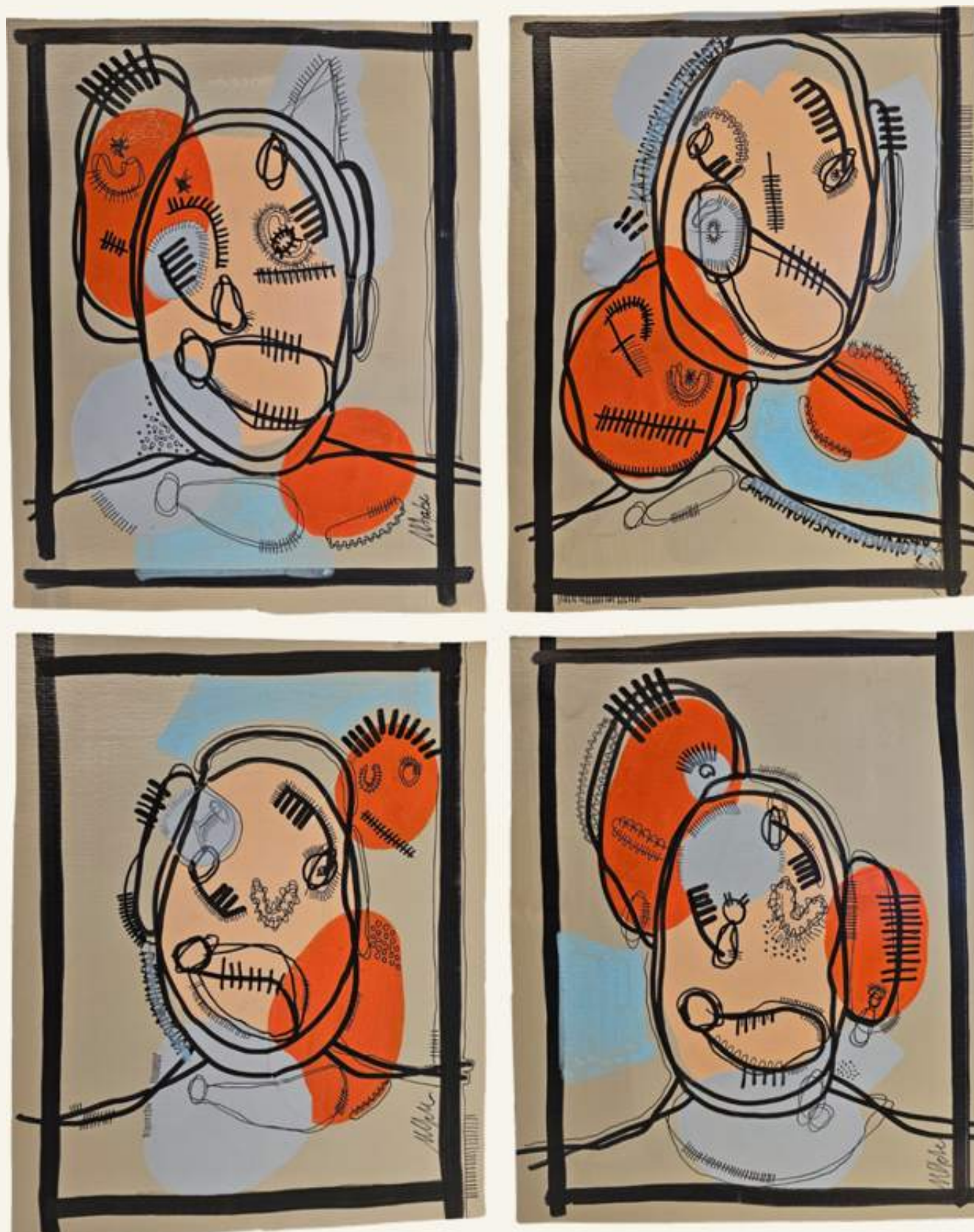
虹に引き裂かれて

Rasgado no Arco-Íris

2023・13 × 18 cm・厚紙にアクリル

販売可・価格はお問い合わせください

歪んだ笑み、驚いた歯、許しも請わずに輝く目。自らの皮膚を引き裂いて祝祭になろうとする者のように、彼は色彩となって弾ける。獣でも人間でもない。彼は衝動である。描かれた声であり、音のない騒音である。結局のところ、彼はただ見られたいだけなのかもしれない。あるいは、彼を理解しようとする者を笑いたいだけなのかもしれない。



連作 Bublexas

Série Bublexas

2024・4点連作・24 × 30 cm・厚紙にアクリル

販売可・価格はお問い合わせください

確かな線に縁取られた顔と円い吹き出しの美学は、思考の泡、あるいは守りの球体を想起させる。まるでそれぞれの人物が、自らの感情の宇宙に封じこめられているかのようだ。ベージュの地の上のオレンジと青が鮮やかな対比をつくり、動的な孤立という観念を強める。この連作は、外のノイズのなかの内なる沈黙を探っているように見える。音をくぐもらせ、同時に守る泡である。



終わりのカーニバル

Carnaval do Fim

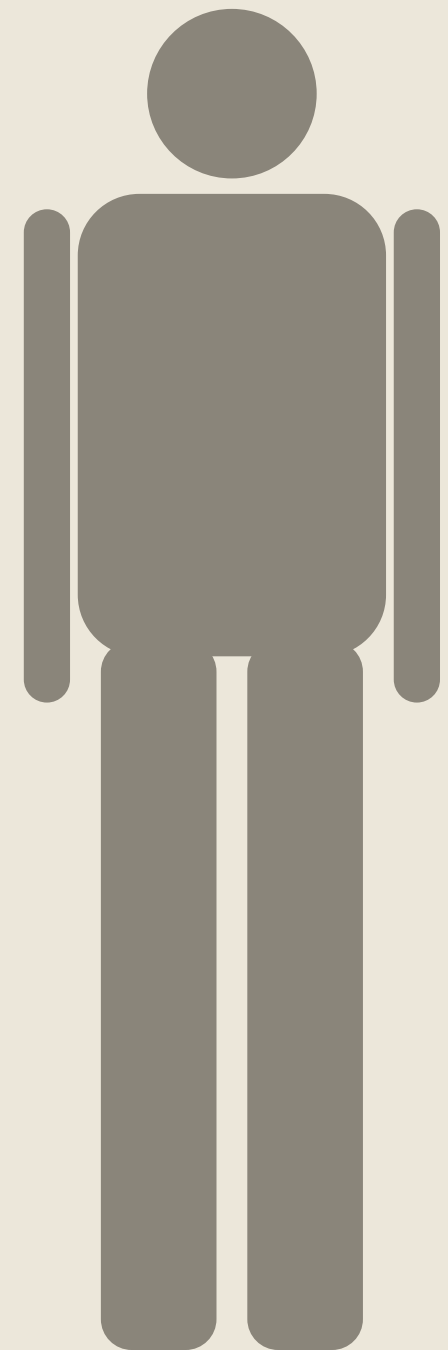
2024・180 × 200 cm・キャンバスにアクリル

販売可・価格はお問い合わせください

すべてが崩れ落ちたときに残る笑いである。汚れた、歪んだ、抑えようのない哄笑。ここで悲しみはラメをまとい踊り、悲劇は仮面をつけ、トラウマは街頭の行列で歌う。それは過剰の行進であり、崩壊を笑う集団の錯乱である。泣くには息が要り、もう空気は残っていないのだから。どの顔も私たち自身の混沌を映す歪んだ鏡であり、もはや説明できないものを嘲っている。笑いは生き延びる術となった。そしてこの絵は、描かれた叫びとなった。

終わりのカーニバル

スケール・180 cm × 200 cm (幅 × 高さ)



比較用の人物像：身長 1.75 m

存在の 激昂

第2部

逸脱への恐れは終わり、混沌はひと筆ごとに、作品に重なるひと層ごとに根を下ろす。完成の時は常に問い直され、改められる。数年前に描き始めた作品もあり、いまになってようやく、最後の線、印、あるいは叫びを加えずにはいられなくなった。激昂はその頂点に達する。社会の崩壊がキャンバスの上で、線のなかで、人物たちのエネルギーに満ちた形のなかで演じられる黙示録のように。





理性の通夜

O Velório do Razão

2021・50 × 60 cm・キャンバスにミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

ひとつの身体が表面に横たわる。誰かかもしれない、ひとつの観念かもしれない。その上で、ひとりの人物は悼まない。見つめている。緑は腐った希望のように脈打ち、青は笑いのあとの沈黙である。心は、壊れたメリーゴーラウンドのように、ほどけたまま回る。顔は理解しようとしなない。続けようとしている。笑いは楽しませない。働きつづけようとする正気に油を差すのである。ひび割れていても。意味がなくても。



映さない鏡

Espelhos Que Não Refletem

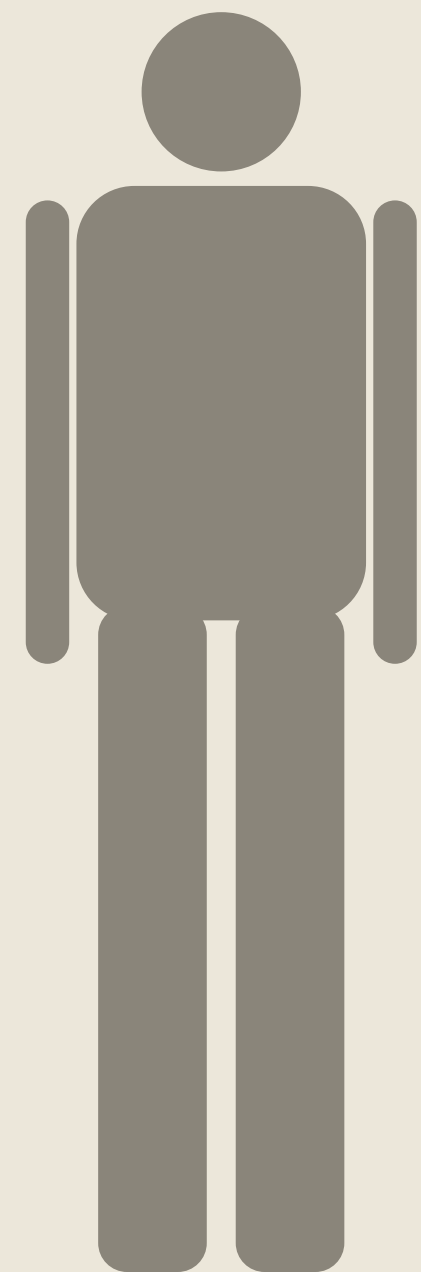
2022・200 × 180 cm・キャンバスにミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

ふたつの顔が、決して向き合うことのない残響のように並んでいる。ひび割れと沈黙のあいだで、混乱した緑のなかに溶け合う。何も鮮明ではない。顔も、思考も。青がすべてを沈める。ここで反映は明かさない。溶かすのである。

映さない鏡

スケール・200 cm × 180 cm (幅 × 高さ)



比較用の人物像：身長 1.75 m



内なる群衆

A Multidão Dentro

2021・40 × 50 cm・キャンバスにミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

ふたつの、あるいはそれ以上である顔。仮面の上に仮面、さらにその上に仮面。線は沈黙のうちに叫び、まるでどの層も先に抜け出そうとしているかのようだ。混乱は欠陥ではない。肖像である。ここで主体は、記憶と驚きと残響のあいだでほどけていく。



血管のカーニバル

Carnaval Vascular

2021・60 × 70 cm・キャンバスにミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

絵具の静脈が、内なる太鼓のリズムで脈打つ。動脈と紙吹雪でできた顔は、すべての神経で微笑む。ここで錯乱は解剖学である。肉、色彩、過剰。皮膚の下の行進である。



燃える笑い

Riso Ardente

2024・50 × 60 cm・キャンバスにミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

炎が顔を舐める。それでも顔は微笑む。勇気からではなく、習慣から。混沌のなかで飼い慣らされた、親密な私たちの肖像である。その角は王冠。その哄笑は炎。燃えながら、踊っている。



歪んだ光

Luz Torta

2024・50 × 60 cm・キャンバスにミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

すべてが輝きすぎている。しかし、あるべき場所にはない。見開かれた目は、これが恍惚なのか眩暈なのかわからない。光は歪んで差しこみ、触れるものを歪め、顔は反射的に、あるいは身を守るために微笑む。この色彩の錯乱のなかで、恐れさえも色を帯びる。



無題 I

Sem Título I

2024・50 × 60 cm・キャンバスにミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

内側では何かが締めつけている。しかし外側では笑いながら逃れていく。警告で縫い合わされた顔は、叫びを歯のあいだで噛み殺しているようだ。すべてが色彩でありノイズであるが、中心の、まさにそこにあるのは、刺すような沈黙である。



無題 II

Sem Título II

2024・50 × 60 cm・キャンバスにミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

世界への飢えをもって微笑む。しかしその目は古い疲れを漏らしている。そこには道化の何かと、預言者の何かがある。色彩は希望を叫ぶが、線は亀裂を明かす。それは防御としての、あるいは復讐としての喜びである。



無題 III

Sem Título III

2024・50 × 60 cm・キャンバスにミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

ふたつの顔、混ぜ合わされたひとつの運命。手前の人物は口の端で微笑み、背後の影は内心で笑っているように見える。線と重なりのあるあいだに緊張がある。どちらが本物で、どちらが装っているのか。混沌は分かち合われている。まるで正気がふたりで踊るダンスであり、誰がリードしているのか誰も知らないかのように。

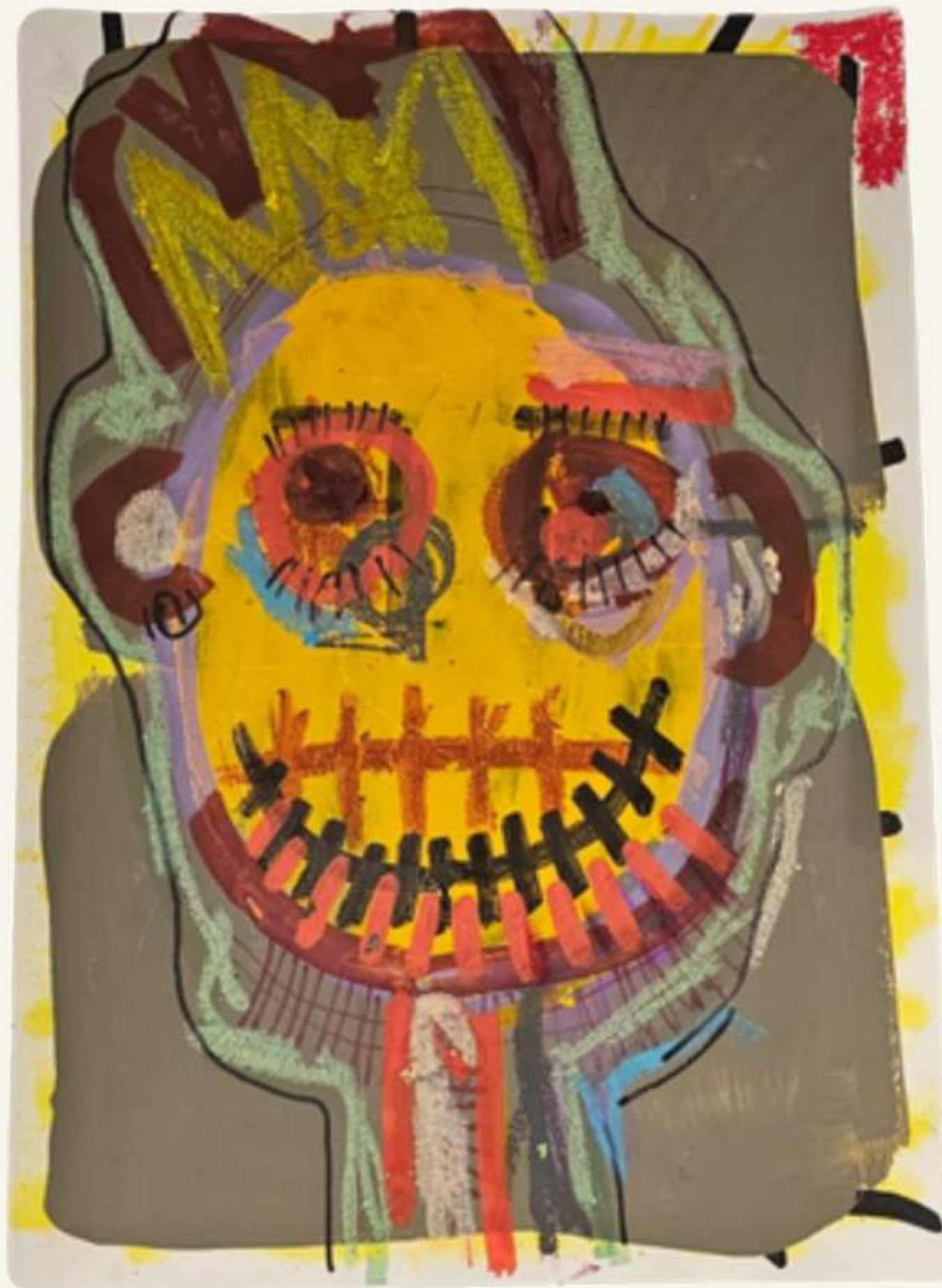


Exasvid

2023・30 × 40 cm・厚紙にミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

笑みは大きいですが、招き入れはしない。貼りつけられたような、内側から強いられたような笑みで、まるで叫ばずにいるためだけに笑っているかのようだ。目は互いに逆の方向へ回り、すでに過ぎ去ったカーニバルのなかで迷っている。すべてが輝いているが、何かがすり減っている。穴の開いた紙は古い通知表を思わせる。綴じこまれ、忘れられかけた顔である。



Reixaper

2023・30 × 40 cm・厚紙にミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

彼は、問いを理解しなかった者のように、あるいは理解しすぎた者のように微笑む。「Reixaper」は名前ではない。それは作られた響きであり、彼を立たせつつける色とりどりの狂気への合言葉である。泥の額縁のなかで黄色い顔が光る。灰色の日の非常灯のように。人間のグリッチ。私たちが消し去ることのできないすべてのトーテムである。



Flowersaper

2023・30 × 40 cm・厚紙にミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

花は生まれた。しかし見知らぬ土の上に。「Flowersaper」は庭の色をしているが、その表情は、美もまた傷つけることを知る者のものである。笑みはためらう。内側から縫い閉じられた目は、混乱した記憶を守っている。幼年期か、混沌か。桃色と緑と青の色調のあいだで、一本の棘が育つ。疑いである。優しげに見えるものは震えている。甘く見えるものは刺す。美しく、しかし歪んだすべてのものの肖像である。



連作 Familexas

Série Familexas

2023・3点連作・30 × 40 cm・厚紙にアクリル

販売可・価格はお問い合わせください

家族か、虚構か。《Familexas》では、どの顔もかつて存在した誰か、あるいは一度も存在しなかった誰かを思い起こさせる。青と黒と紫の層のなかで、肖像は壊れた絆、歪んだ情愛、結びつけるよりも縛りつける紐帯をさらけ出す。幼年期の気配があるが、断絶の気配もある。誰もが虚ろな目と封じられた笑みでポーズをとる家族アルバムである。ここでの遺産は感情的なものであり、ノイズを重く抱えている。



連作 Milicexas

Série Milicexas

2024・4点連作・30 × 40 cm・厚紙にアクリル

販売可・価格はお問い合わせください

軍服を思わせる色調と混沌とした線で、《Milicexas》は支配と恐怖と権力の戯画の系譜を描く。歪められた名前、作られた言葉、張りつめた表情が、無言で叫ぶ顔たちのこのギャラリーを形づくる。連作は声高に告発しない。ほのめかし、つつき、皮肉る。まるでどの人物も想像上の帝国に属していながら、それが危ういほど身近であるかのようだ。ここで笑うことは抵抗することである。そして描くことは、立ち上がることである。



Caotibkismo

2023・30 × 40 cm・厚紙にアクリル

販売可・価格はお問い合わせください

黒と白と切迫からできている。《Caotibkismo》は視覚のマニフェストであり、人形の姿をした叫びである。言葉は歪んで現れる。黙らされることを拒みながら、何を言うべきかもよくわからない者のように。恐怖と無関心のあいだで凍りついた顔は、混沌が美学となり、生き延びる術となった時代の精神をとらえている。ここではすべてが滴り、すべてが震え、すべてがすり減る。それでもなお、すべてが持ちこたえる。



連作 Ninexas

Série Ninexas

2024・9点連作・30 × 40 cm・厚紙にミクストメディア

一括販売・販売可・価格はお問い合わせください

九つの顔。同じひとつの崩壊の九つの変奏。《Ninexas》の連作は、歯を食いしばって笑い、目を見開いて泣いているようだ。どの肖像も形を保とうとする試みであるが、線は決して閉じず、輪郭は常に漏れ出す。静けさが足りないところに色が多すぎる。言葉がもはや残っていないところに身振りが多すぎる。それは変異する仮面のアルバムである。どれもが同じ問いを抱えているが、答える用意のあるものはひとつもない。

連作 Ninexas

9点構成・2024



パート1



パート2



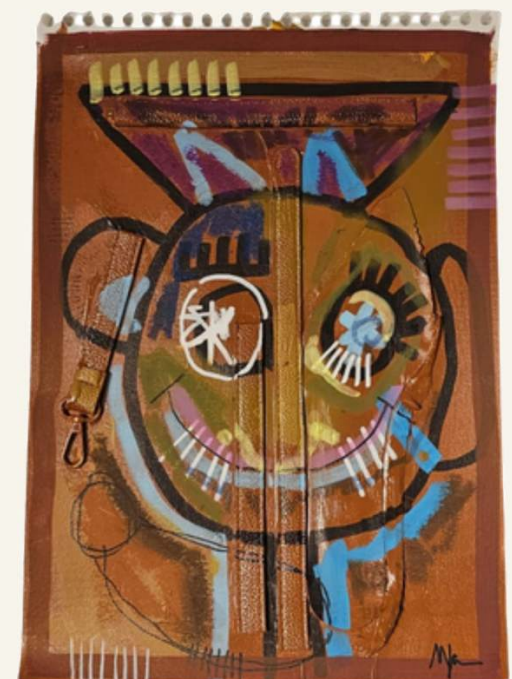
パート3



パート4



パート5



パート6



パート7



パート8



パート9



Latexapera

2023・50 × 60 cm・キャンバスにミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

折れ曲がり、ねじれ、剥がれていく顔。《Latexapera》において、アイデンティティは溶けていくように、あるいは自らを守っているように見える。内側の過剰を抑えこもうとする第二の皮膚のように。色彩は沈黙に抗うかのように震えるが、身振りにはどこか引きこもったものがある。頭は垂れる。しかし降伏ではない。築かれつつある偽装である。すっかり崩れ落ちないために、仮面になることを学ぶ身体である。



Iconexa

2025・63 × 63 cm・デジタルプリントの粘着シートにミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

古典が混沌に侵入する。錯乱の中心に、ひとつの肖像がある。穏やかで、太古の、ほとんど無傷の肖像である。その周りで世界は色彩と掻き傷とともに崩れ落ち、まるで時間が永遠の静けさを呑みこもうとしているかのようだ。《Iconexa》は聖なるものと崩壊のあいだにある、歪んだ祭壇である。像は持ちこたえるが、包囲されている。崇められ、同時に冒瀆されている。



Selficonexa

2025・63 × 63 cm・デジタルプリントの粘着シートにミクストメディア
販売可・価格はお問い合わせください

被造物のなかの作者。肖像は見つめない。見つめられる。歪みの枠のなかで、現実の顔が錯乱と溶け合う。《Selficonexa》は線へと碎け散った鏡であり、内側から引き裂かれたアイデンティティの叫びである。ここで芸術は表象しない。貪り食うのである。



LeónとIconexão

Iconexão com León

2025・63 × 63 cm・デジタルプリントの粘着シートにミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

これは世界と世界の出会いであり、絵具、紙、記憶、創作が層となってコラージュされている。Leónの像は混沌の中心で踏みとどまる。象徴としてではなく、存在として。描かれた顔が彼を吸いこみ、片隅の厚塗りの太陽が時の流れを叫ぶ。ここでつながりは、親密なものと象徴的なもののとのあいだの協定である。



Pauta Amor

2025・63 × 63 cm・デジタルプリントの粘着シートにミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

私たちが愛する混沌へ宛てたグラフィックな手紙。消された言葉と見開かれた目のあいだから、「TUA AMOR」が嘆願として、また宣告として浮かび上がる。色彩は爆発するが、中心にあるのは声にならない願いである。愛するとは混乱に耐えること、そしてそれを芸術に変えることである。



The Tote I

2024・32 × 64 cm・合成皮革にミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

これはただのバッグではない。都市の聖遺物箱である。混沌の布地に縫いこまれた顔、語りかけの物語を叫ぶかのような殴り書き。「THE TOTE」は支持体となり、象徴となる。世界を運び、そのなかですでに迷ってしまった者たちを運ぶ。



The Tote II

2024・32 × 64 cm・合成皮革にミクストメディア

販売可・価格はお問い合わせください

使いこまれた革の上を、歪んだ顔の行列が進む。記憶、トラウマ、都市と無意識の囁き。

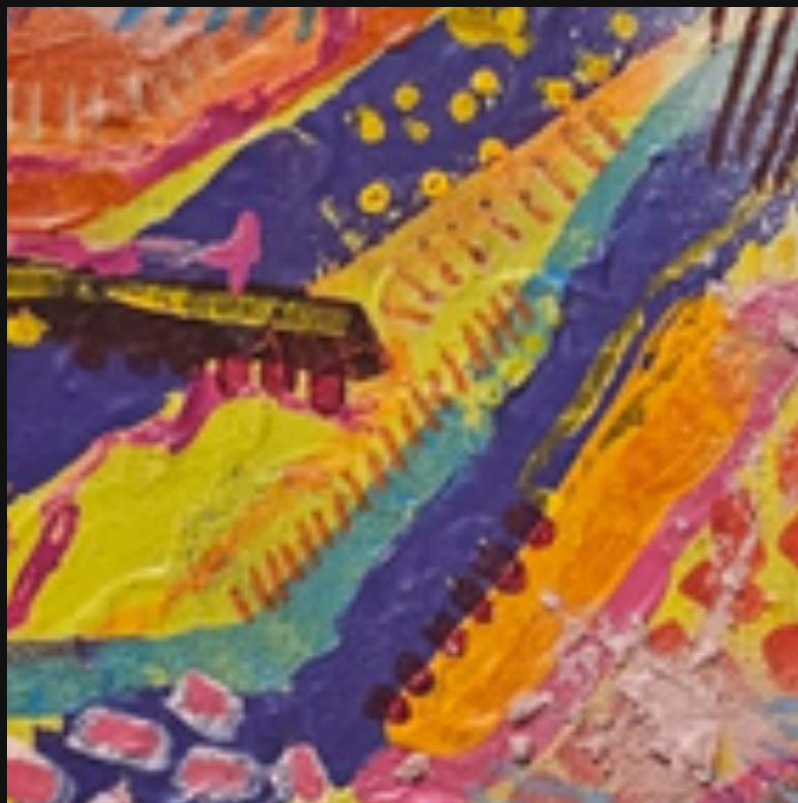
「THE TOTE II」は物以上のものである。崩壊のなかにある時代の、刺青を施された皮膚であり、そこではすべてがノイズであり、身振りであり、存在である。

マティエール と絵具の層

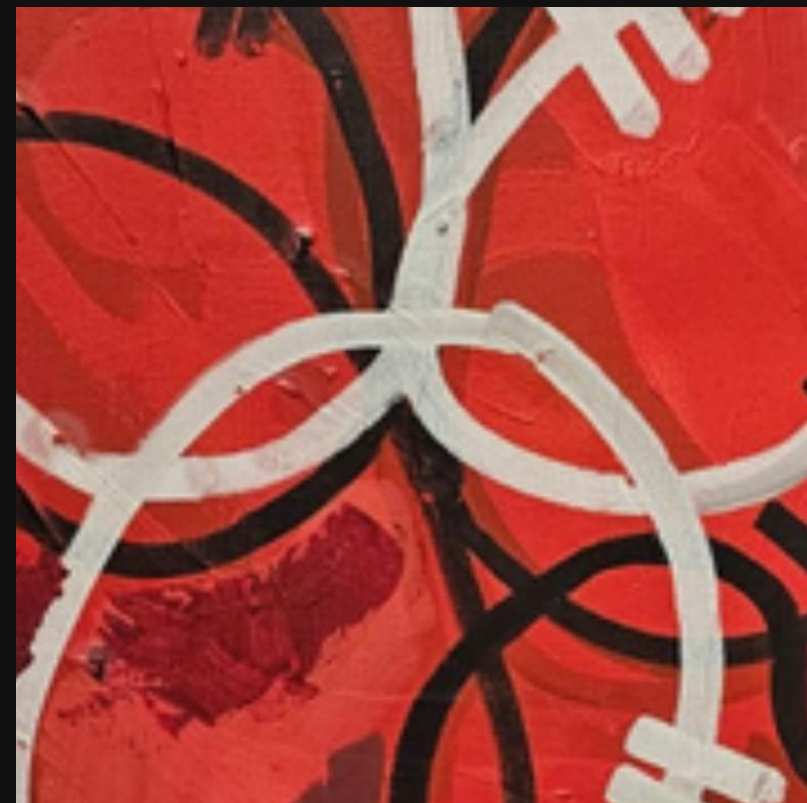
作品表面の細部のクローズアップ。



線の発見, 2020



線のフレーヴォ, 2020



聖家族 1, 2021



八月の空の下Familixa, 2024



終わりのカーニバル, 2024



Latexopera, 2023

マニフェスト

私は、喉に収まりきらなかった叫びである。

私は歪んだ線、過剰、欠陥、讃えられた誤りである。

私の芸術は喜ばせようとはしない。対峙し、ずらし、挑発する。

それは私の母語であり、私の野蛮な言語である。

私は怒りと優しさで描く。

神経質な笑いと、眠らせてくれない夜更けの沈黙で。

私が生み出す顔はどれも割れた鏡である。私たちのありうる姿の反映である。複数で、傷つき、生きている。

私は清潔な美学にも、飼い慣らされた形の論理にも属さない。

私の幾何学は不安定で、私の聖人は歪み、私の悪魔は蛍光色の歯で微笑む。

私は汚れた都市の、くしゃくしゃのノートの、見せる以上に殴られる
キャンバスの子である。

私は図解しない。私は明かす。

それは、守るふりをする権威への叫びである。

それは、情愛と遺産と感情のノイズの混乱である。

それは泥から生まれ、それでもなお微笑む花である。

それは、私たちが感じないふりをしている同じ痛みの顔たちである。

美術館はいらない。壁が、荷物が、傷痕がほしい。

私を貫くものを描く。私を引き裂くものを描く。私を癒すものを描く。

私の芸術に二スはない。あるのは血と唾液と汗とプシュケーである。

私はYabeである。

そしてこれが私の戦いである。沈黙に抗い、良い趣味に抗い、正常さに抗う。

見る者は、感じよ。感じる者は、背負え。

そして背負う者は、変えよ。

なぜなら、これは絵画ではないからだ。

それは生存である。儀礼である。炎である。

それは、崩壊のあとに残されたものである。

欲望の 間奏

作品の痙攣するような連なり、様式の急激な変化、そして私が絵画に向き合う無政府的な自由に、あなたは戸惑ったかもしれない。それは私の勇気のなさゆえである。もし何年も前から一点ずつ作品を見せはじめていたなら、あなたはその歩みを追うことができたかもしれない。いまあなたが目にしているのは、ひとつの閉じた時期である。完結したのではなく、一冊のカタログに凝縮されたのである。

「存在の激昂、第2部」は、さらに17点の作品とともに続く。その後、「存在の激昂、第3部」は、当初、さまざまな素材による38点の作品を収める予定である。美的な転覆の探求は続いていく。

存在の欲望をめぐる、この狂おしくも甘美な旅にご同行いただいたことに感謝する。

作品リスト

コード		状況
	MY-2020-001 線の発見 2020・118 × 180 cm・キャンバスにアクリル	販売可
	MY-2020-002 存在の線の重なり 2020・二連作 20 × 40 cm・キャンバスにアクリル	販売可
	MY-2020-003 恋人たちを結ぶ線 2020・30 × 30 cm・キャンバスにアクリル	販売可
	MY-2020-004 自我の混沌たる線 2020・30 × 30 cm・キャンバスにアクリル	販売可
	MY-2020-005 線の自然 2020・20 × 20 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可
	MY-2020-006 三人のマリアの線 2020・三連作 240 × 120 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可
	MY-2020-007 描かれた運命 1・2 2020・20 × 40 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可
	MY-2020-008 連作「線の身体」 2020・3点連作・20 × 60 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可
	MY-2020-009 連作「線のセクシュアリティ」 2020・4点連作・29 × 21 cm・厚紙にミクストメディア	販売可
	MY-2020-010 線のロマンティシズム 1・2 2020・各 29 × 21 cm・厚紙にミクストメディア	販売可

ポートフォリオ / 作品リスト

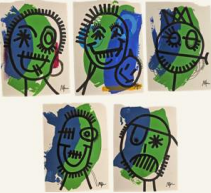
	コード	状況
	MY-2020-011 陰鬱な線 2020・29 × 21 cm・厚紙にミクストメディア	販売可
	MY-2020-012 線の四つの流れと同じ身体たち 2020・29 × 21 cm・厚紙にアクリル	個人蔵
	MY-2020-013 線は太陽と海に出会う 2020・21 × 29 cm・厚紙にミクストメディア	販売可
	MY-2020-014 描かれた情景 1・2 2020・各 21 × 29 cm・厚紙にミクストメディア	販売可
	MY-2021-015 描かれたファヴェーラの情景 2021・二連作 120 × 80 cm・キャンバスにチョーク	販売可
	MY-2020-016 線と人々の物語 2020・二連作 40 × 20 cm・キャンバスにアクリル	販売可
	MY-2020-017 線の実存主義 2020・30 × 30 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可
	MY-2020-018 線の解体 1、6部作 2020・20 × 20 cm のキャンバス6点による構成・キャンバスにアクリル	販売可
	MY-2020-019 線の解体 2、3部作 2020・29 × 21 cm の作品3点による構成・厚紙にアクリル	販売可
	MY-2020-020 線のフレーヴォ 2020・30 × 30 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可

ポートフォリオ / 作品リスト

	コード	状況
	MY-2020-021 線のOlinda 2020・100 × 140 cm・キャンバスにアクリル	個人蔵
	MY-2020-022 汚れた夜に迷うふたり 2020・二連作 20 × 40 cm・キャンバスにアクリル	販売可
	MY-2020-023 José Mariaの旅立ち 2020・二連作 60 × 30 cm・キャンバスにアクリル	販売可
	MY-2021-024 聖家族 1 2021・50 × 50 cm・キャンバスにアクリル	販売可
	MY-2021-025 聖家族 2 2021・60 × 70 cm・キャンバスにアクリル	販売可
	MY-2021-026 聖家族 3 2021・40 × 50 cm・キャンバスにアクリル	販売可
	MY-2021-027 家族たち 2021・100 × 140 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可
	MY-2020-028 家族たち、その他の変奏 2020・100 × 150 cm・キャンバスにアクリル	販売可
	MY-2020-029 同じ沈黙の七つの変奏 2020・21 × 29 cm の作品7点による構成・厚紙にアクリル	販売可
	MY-2020-030 燃えて、照らさぬもの 2020・二連作 20 × 40 cm・厚紙にミクストメディア	販売可

ポートフォリオ / 作品リスト

	コード	状況
	MY-2020-031 森と空と川のあいだに横たわるふたつの身体 2020・21 × 29 cm・厚紙にミクストメディア	販売可
	MY-2020-032 身体という領土 2020・21 × 29 cm の作品3点による構成・厚紙にミクストメディア	販売可
	MY-2024-033 Familexaと沈黙 2024・80 × 100 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可
	MY-2024-034 八月の空の下Familexa 2024・100 × 100 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可
	MY-2024-035 Familexa、大地と時間 2024・80 × 90 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可
	MY-2024-036 星々と囁きのあいだのFamilexa 2024・80 × 100 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可
	MY-2024-037 大地のヴェールの下で 2024・60 × 60 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可
	MY-2022-038 青い渦の音 2022・30 × 30 cm・キャンバスにアクリル	販売可
	MY-2022-039 寝室の壁の残響 2022・50 × 50 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可
	MY-2022-040 沈黙の肩の上で 2022・50 × 50 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可

	コード	状況
	MY-2022-041 まだ生まれぬ声 2022・30 × 30 cm・キャンバスにアクリル	販売可
	MY-2023-042 静かなカーニバルの肖像 2023・5点連作・21 × 29 cm・厚紙にアクリル	販売可
	MY-2023-043 世界の終わりを夢見た少年たち 2023・3点連作・30 × 40 cm・厚紙にアクリル	販売可
	MY-2023-044 自らの名を消すように、私たちは愛した 2023・二連作 30 × 60 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可
	MY-2023-045 砂のなかで笑う影 2023・30 × 30 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可
	MY-2022-046 忘れられた風を聴く者たち 2022・40 × 40 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可
	MY-2023-047 私に噛みつく仮面たち 2023・3点連作・30 × 40 cm・厚紙にアクリル	販売可
	MY-2024-048 森を嘲る精霊たち 2024・二連作 80 × 50 cm・キャンバスにアクリル	販売可
	MY-2024-049 深淵の哄笑 2024・50 × 60 cm・キャンバスにアクリル	販売可
	MY-2023-050 片目の治世 2023・14 × 21 cm・厚紙にアクリル	販売可

ポートフォリオ / 作品リスト

	コード	状況
	MY-2023-051 虹に引き裂かれて 2023・13 × 18 cm・厚紙にアクリル	販売可
	MY-2024-052 連作 Bublexas 2024・4点連作・24 × 30 cm・厚紙にアクリル	販売可
	MY-2024-053 終わりのカーニバル 2024・180 × 200 cm・キャンバスにアクリル	販売可
	MY-2021-054 理性の通夜 2021・50 × 60 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可
	MY-2022-055 映さない鏡 2022・200 × 180 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可
	MY-2021-056 内なる群衆 2021・40 × 50 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可
	MY-2021-057 血管のカーニバル 2021・60 × 70 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可
	MY-2024-058 燃える笑い 2024・50 × 60 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可
	MY-2024-059 歪んだ光 2024・50 × 60 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可
	MY-2024-060 無題Ⅰ 2024・50 × 60 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可

ポートフォリオ / 作品リスト

	コード	状況
	MY-2024-061 無題 II 2024・50 × 60 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可
	MY-2024-062 無題 III 2024・50 × 60 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可
	MY-2023-063 Exasvid 2023・30 × 40 cm・厚紙にミクストメディア	販売可
	MY-2023-064 Reixaper 2023・30 × 40 cm・厚紙にミクストメディア	販売可
	MY-2023-065 Flowesaper 2023・30 × 40 cm・厚紙にミクストメディア	販売可
	MY-2023-066 連作 Familexas 2023・3点連作・30 × 40 cm・厚紙にアクリル	販売可
	MY-2024-067 連作 Milicexas 2024・4点連作・30 × 40 cm・厚紙にアクリル	販売可
	MY-2023-068 Caotibkismo 2023・30 × 40 cm・厚紙にアクリル	販売可
	MY-2024-069 連作 Ninexas 2024・9点連作・30 × 40 cm・厚紙にミクストメディア	販売可
	MY-2023-070 Latexapera 2023・50 × 60 cm・キャンバスにミクストメディア	販売可

ポートフォリオ / 作品リスト

	コード	状況
	MY-2025-071 Iconexa 2025・63 × 63 cm・デジタルプリントの粘着シートにミクストメディア	販売可
	MY-2025-072 Selficonexa 2025・63 × 63 cm・デジタルプリントの粘着シートにミクストメディア	販売可
	MY-2025-073 LeónとのIconexão 2025・63 × 63 cm・デジタルプリントの粘着シートにミクストメディア	販売可
	MY-2025-074 Pauta Amor 2025・63 × 63 cm・デジタルプリントの粘着シートにミクストメディア	販売可
	MY-2024-075 The Tote I 2024・32 × 64 cm・合成皮革にミクストメディア	販売可
	MY-2024-076 The Tote II 2024・32 × 64 cm・合成皮革にミクストメディア	販売可

販売条件

価格	価格はお問い合わせください。販売担当者よりご案内いたします。
真正性	すべての作品に、作家の署名入り真正性証明書が付属します。
署名	すべての作品に作家の署名があります。
お取り置き	販売担当者へのご連絡により、作品のお取り置きが可能です。
梱包と輸送	作品と送り先に応じてお見積もりいたします。ブラジル国内および海外に対応します。
納期	所在地と輸送方法に応じて、交渉の際に取り決めます。

ご購入について

出会った時期によって、あなたは私をパブリッシャーとして、あるいはいずれかの企業の経営幹部として知っているかもしれない。しかし作家としてのこの顔において、私はただひとつのことに専念すると決めた。作家であることに。

そのため、作品の販売と交渉に関わる一切は、豊富な経験をもつ女性のセールス・エグゼクティブに委ねている。

販売窓口

Fernanda Walter

販売担当

+55 41 9731-7759



Marcus Yabe

ポートフォリオ / カタログ 001

販売窓口: Fernanda Walter ・ +55 41 9731-7759

2026年10月版